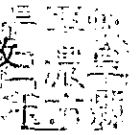


美 都 第 368 号
平成 20 年 10 月 16 日

国土交通省道路局長 殿

美濃市長 石 川 道 政



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成 20 年 9 月 19 日付け国道企第 3 7 号で依頼のありました標記の件
につきまして、別添の通り提出いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

岐阜県美濃市

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

1. 国道の交通渋滞を解消するために、郊外にバイパス道路を作り、交通を通過させるのではなく、現道の改築や交差点改良を実施し、通過交通の利便性を図りながらも、旧来の町並み等へ交通の流入を図ることにより、まちに「にぎわい」を再生させる。
2. 農地・山地の保全を行うために、国土交通省と農林水産省が協力し、受光伐、間伐、育林、複層林化等の事業を一体となって推進する。その際、必要となる治山・治水・災害防除(落石)対策等を新分野として国土交通省が中心となって行うことにより、地域経済(とりわけ建設業)を活性化させる。その際、国道だけでなく河川や谷、山、林道も含め、景観特にグランドスケープに配慮した自然空間を作ることが、新たな観光資源や形成に役立て、多自然な安全・安心な空間の形成は観光資源として地域の活性化につらなると考える。
3. インフラ整備に代表される道路・橋梁等に対する補助だけでなく、自治体の特性を活かしたまちづくりができるまちづくり交付金等、自治体の創意工夫により弾力的に活用できる補助体系のさらなる推進。

○現状

東海環状自動車道は、高規格道路として、美濃関JCTで東海北陸自動車道に結束し、本市や沿線自治体の活性化へ大きな可能性をもたらし、工業団地・住宅地の開発などが活発に行われるようになった。

国道 156 号は、円滑な交通処理のため、交差点改良や騒音対策としての排水性舗装等の整備を進めてきているが、安心・安全のためには、歩行者や時点車道と分離していない状況から、十分な歩道幅の確保やバリアフリー化など歩行者に対する対策は進んでいない状況である。

県道は、全体の改良率は 70.1%となっているが、近隣市町と当市を結ぶ、(主)岐阜美濃線や(主)美濃川辺線の改良、(一)上野関線の(仮)新大矢田トンネル等は、費用が莫大となるため事業の進展が望めない状況である。

市道は、1・2級の市道を中心に拡幅、改良整備などを、みち交等の補助金を得て実施しているが、財政が逼迫している折、改良率は伸びが少ない状況である。自転車でも安全で快適に走行できる道路を整備し、ゆっくりと美濃の自然や観光名所などの魅力を堪能するサイクリングの普及を図るため、美濃サイクルツアー推進計画を進めている。

○課題

東海環状自動車道の更なる流通の利便性の向上を目指し、西回り区間の積極的な建設促進を図る必要がある。

国道 156 号は、円滑な交通処理を行うために、交差点改良の実施や歩道の改良を行い、安全・安心な歩行空間の確保とバリアフリー化を図る必要がある。また、安全な歩道や自転車道の整備に立って多自然を楽しむサイクルツアー構想等、都会と地方の交流が進むことができる。

県道は、周辺市町を結ぶ重要な幹線道路であり、広域交通の円滑化、所要時間の短縮及び地域経済や産業の発展を図るために、計画的に建設を促進する必要がある。

市道では、市街地の交通緩和や利便性を高め地域の活性化を図る都市計画道路の建設促進する必要がある。また、市民が安全・安心で快適にウォーキングなどが楽しめる歩行者・自転車道路の整備を進めるとともに、整備した道路を利用したサイクリングなどの健康づくりの普及を図る必要がある。

②-2 地域の目指すべき将来像

住みたいまち 訪れたいまち 美濃市

～着実に 優しく こころの通うくらしづくり～

魅力あるくらしの環境づくり

住む人にとっても、訪れる人にとっても、魅力あるまちを目指します。

これまでの経済成長を支えた大都市への人や物、情報の集中は、成熟社会へと移行する中で見直され、「地方の時代」が到来したと言われています。そして、地方固有の自然や伝統文化などに支えられた地域の「くらし環境」が再評価されています。

本市は、長良川、板取川をはじめとする清らかな水と、瓢ヶ岳など緑濃い山々に囲まれた豊かな多自然居住地域です。そして、この自然環境のなかで守り育てられた美濃和紙、歴史のある町並み、美濃まつり、大矢田のヒンココまつりなど誇るべき伝統文化があります。

これらに支えられた本市の「くらし環境」に、より磨きをかけ魅力ある地域とするため、ライフスタイルの変化により、スローライフを積極的に進め、伝統文化、多自然と合わせサイクリングをまちづくりの重要な施策として取り組み、上・下水道、道路、公園、水辺、景観、医療などの整備により、市民生活の快適性、利便性を高めていきます。さらに、美濃市の良さを市内外へ情報発信し、住む人、訪れる人が魅力を実感できる「住みたいまち 訪れたいまち」づくりを推進します。

こころと健康の充実

「くらしの環境」づくりの基本条件として、市民の「こころ」と「健康」の充実を重視するまちを目指します。

「住みたいまち 訪れたいまち」づくりのためには、都市環境整備だけでなく、「こころ」づくり、まちづくりを担う「ひと」づくりに、そして市民が一体となって調和のとれた「まち」づくりに発展することを理想としています。性別や職業、住んでいる地域などに関係なくお互いを尊重し助け合うこころ、まちを愛するこころ、自然を愛するこころ、このような「こころ」の通うくらしづくりを進めます。

また、「こころ」の充実のためには、市民が心身共に「健康」であることが必要となります。サイクリングシティを目指し、活動的、健康的な市民と共に、教育と文化の向上、スポーツ・レクリエーションの振興、市民が安心して暮らせる保健・医療・福祉のシステムづくりを進めます。

着実に優しく成長を持続

自然と伝統文化に調和し、「着実に」「優しく」成長が持続するまちを目指します。

本市は、「美濃テクノパーク」の建設をはじめ、将来の発展のための布石を積極的に築いていました。さらに、高速道路網が拡充され、広範囲な交流の活性化が期待できる環境となっています。

このような条件を活用し、21世紀に対応する最先端技術産業など、競争力のある産業の発展を始め、あらゆる分野において、持続的に成長を進めていくことが重要です。また、新しい時代に向けた高度情報化やハイテク化の動きと、本市の自然や伝統文化とを調和させていくために、「着実に」「優しく」成長していくことも重要です。

地方行政においては、厳しい経済情勢のなかで、従来のような投資を続けることが困難な状況にあたるため、事業の効果的な実施や適切な財政計画に基づく行財政の効率的な運用を図ります。また、周辺市町村と広域的な連携を図り、さらに市民と行政の緊密な協働による体制づくりを推進します。

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域生活の向上	市街地整備事業(まち交) 情報発信と防災機能を備えた 道の駅「美濃にわか茶屋」	9.3ha の電線類地中化事業と町並み整備により、観光客が60万人(H16)から100万人(H19)になった。 観光客の増加に伴い、空き店舗が新しい店舗として復活した。H20 現在 16 軒を数える。 地域防災拠点として防災機能を備え、有事の際には、周辺住民の避難所として使用ができる。また、市民や利用者を含めた防災訓練等に活用した。 物産館では地域の特産物等を堪能でき、まちづくりの核となる施設として、今後、様々な利用方法がされる。H19.9～H20.8 まで約 50 万人が利用し、郷土の特産品・農産物は約 2 億 2,000 万の売上げがあった。	
・総合的な交通安全対策及び危機管理の強化	サイクルステーションの拠点としての 道の駅「美濃にわか茶屋」	平成17年度に「あんしん歩行エリア」整備計画を策定し、歩行者・自転車の安全確保を目的とした空間確保する道路整備を進めており、当駅はサイクルツアーの発着点としての機能を有し、様々な情報を発信できる場として活用される。 サイクルステーションとして車で立ち寄り自転車を借りたり、自分の自転車でサイクリングを楽しむ来訪者が多くなった。	